|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 授業科目 | 診療に伴う技術 | 単位数 | １単位 | 時間数 | 30時間（内15時間） |
| 担 当 者 | 諏訪　加代子(臨床経験23年) | 学　年 | １学年 | 開講年次 | ２学期 |
| 目的 | 事例を通して、個別性を考慮した適切な判断と看護技術が実施できる。 |
| 科目目標 | 1. 事例患者にとっての科学的根拠（知識）と観察に基づいた看護技術の必要性や方法の選択が判断できる。
2. 事例患者の特性や状況に応じた技術（安全・安楽・倫理的配慮）が実施できる。
 |
| 回数 | 授業計画・授業内容 | 方法 |
| 1回2回3回4回5～7回8回 | １．与薬の基礎知識と薬剤の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）２．経口与薬（バッカル錠、内服薬、舌下錠）の投与３．点眼、点鼻、経皮・外用薬の投与、座薬の投与　　　４．注射の基礎知識５．注射の実施法　１）皮下注射　２）皮内注射　３）筋肉内注射６．注射の実施法と管理　１）静脈内注射（１）ワンショット　（２）静脈路確保・点滴静脈内注射（管理を含む）　　２）輸血法７．針刺し事故の防止・事故後の対応８．終了試験（45分） | 演習演習演習演習演習演習 |
| 准看時授業内容 | 基礎看護技術 |
| 教科書参考書 | 教科書：『系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ』 医学書院参考書：『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院 |
| 評価方法 | 筆記試験 |
| 関連科目 | 解剖生理学、病態生理・病理学、薬理学 |
| 備考 | 演習中心の科目であり、モデルを使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。 |